第 119 回　ウィーン体制とその動揺

1　ウィーン体制の維持

・ウィーン体制では、フランス革命前の状態を復活・維持するため、大国間の協議により（　　）と平和を保とうとした。
→これを列強体制といい、このあと長く続いた。

アレクサンドル1世
理想主義と現実主義が同居したような人物。

・1815 年、ロシア皇帝（　　）の提唱で、キリスト教的な友愛精神に基づく（　　）が結成された。
※イギリス、ローマ教皇、オスマン帝国は参加しなかった。

メッテルニヒ
同盟は、ウィーン体制維持のために利用された。

・1815 年、イギリス、ロシア、オーストリア、プロイセンの４国により、（　　）が結成された。
→1818 年、（　　）が加入し、（　　）となった。
→ウィーン体制を維持することを目的とする、軍事同盟となった。

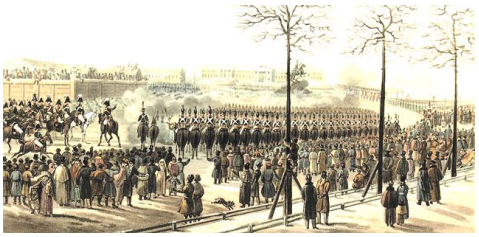
2　ウィーン体制と民族運動

・ヨーロッパ列強がウィーン体制を維持しようとするのに対し、フランス革命やナポレオンの影響によって広まった（　　）や（　　）の運動が、ヨーロッパ各地で活発となった。

・1817 年、ドイツで、統一と自由を求める（　　）という学生運動が起こったが、メッテルニヒはカールスバート決議で鎮圧した。
・1820 年、イタリアで、秘密結社（　　）が革命を起こした。
・1820 年、（　　）が起こり、カディス憲法の復活をはかった。
・1825 年、ロシアで、ニコライ１世の即位に際し（　　）が起こった。
→しかしこれらの運動は、すべて鎮圧された。

カルボナリの逮捕

カルボナリとは、「炭焼き党」という意味である。カルボナーラの語源という説もあるが、さだかでなはない。
ナポリとピエモンテ地方のトリノで蜂起したが、失敗に終わった。

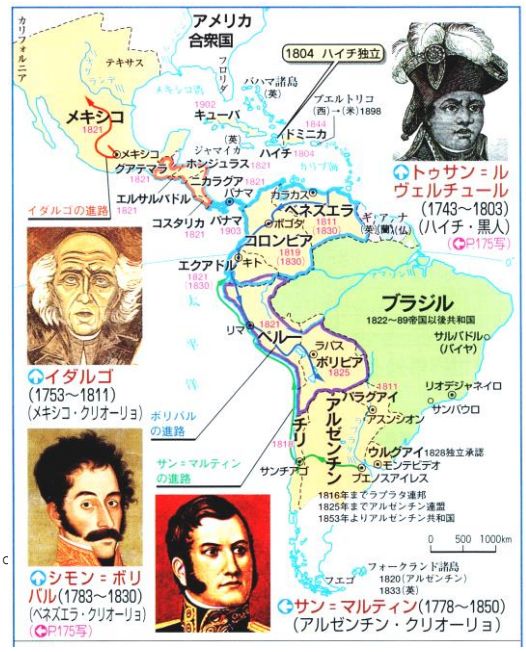


デカブリストの乱
12 月に起こったため、反乱者は「十二月党員」、ロシア語でデカブリストと呼ばれた。ヨーロッパの自由な空気に触れた兵士たちが中心となった。

3　ラテン=アメリカの独立

・ラテン=アメリカは、一部をのぞいて（　　）の植民地となっていた。
　→経済的には、プランテーションによるモノカルチャー経済となっていた。
・（　　）や（　　）の影響を受けて、ラテン=アメリカでも独立運動が盛んとなった。

＜ラテン=アメリカにおける主な人種構成＞
・本国生まれの白人（ペニンスラール）、
・植民地生まれの白人（　　）
・白人とインディオの混血（　　）
・白人と黒人の混血（　　）
・黒人とインディオの混血（サンボ）
　→独立運動の中心はクリオーリョの大地主層であった。



◆（　　）
・仏領サン=ドマングの独立運動を指導した。
　→1804 年、（　　）として独立した。
※ラテン=アメリカ最初の独立国で、世界初の黒人共和国である。

◆（　　）
・（　　）、（　　）、（　　）の独立に貢献した。
・1826 年、ラテン=アメリカの統一と協力を目指してパナマ会議を開催した

◆（　　）
・（　　）、（　　）、（　　）の独立に貢献した。

・（　　）は、（　　）の独立運動の後、1821 年に独立した。
・ポルトガル領の（　　）は、ポルトガルの王子を皇帝とし 1822 年に独立した。

「黒いジャコバン」として知られる。最後はナポレオンに捕えられ獄死した。ハイチの独立と奴隷制廃止は、各国の黒人奴隷制度に衝撃を与えた。
トゥサン=ルヴェルチュール

ラテン=アメリカでは、「解放者」といえばこの人を指す。社交的で情熱的な革命家だった。大コロンビアはうまくいかなかった。
シモン=ボリバル

ボリバルとの協力を模索した時期もあったが、うまくいかなかった。最後はフランスで死去。
サン=マルティン

メキシコ独立の英雄。「ドロレスの叫び」と呼ばれる独立宣言を行ったが、最後は処刑された。
イダルゴ神父

＜アメリカとイギリスの独立支持＞
・1823 年、アメリカ大統領（　　）は、ヨーロッパとアメリカの相互不干渉を宣言した。
・またイギリス外相（　　）も、市場開拓のためにラテン=アメリカの独立を支持した。

アメリカのモンロー

イギリスのカニング

モンローについては、第 131 回のプリントを見ること。カニングに関しては、なぜ独立を支持したのかを理解しておこう。